



2024.5.21

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

社会を良くしないと事故は無くならない

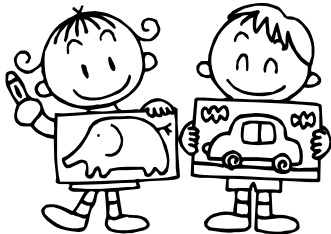
皆さんは荷台の後ろに子どもの絵がラッピングされているトラックを見たことがありますか。私は数年前に高速道路で見たことがあり、その時に自分の心も穏やかになったと同時に、こういうトラックが増えたらドライバーの皆さんの運転がやさしくなって事故が減るのではないかと思います。すると先日、ある講演会でその活動を始めた運送会社の代表の講演を聴く機会を偶然にも頂いたのです。あのトラックの絵のラッピングにはこんな物語がありました。



あの当時、物流社会の勢いに乗り会社の業績もどんどん上がっていったある日、一人のドライバーが事故を起こしました。普段は真面目で模範的なドライバーでしたが、一瞬の不注意で相手の方は亡くなってしまったそうです。亡くなられた方のご家族は、奥様と小さなお子さんがみえました。お詫びはもちろんのこと出来る限りの補償でご家族を見守っていきました。その時に「トラックが悲劇を起こしてしまう。ではトラックが無くなればよいのか。しかし今の社会にトラックは欠かせない。トラックを無くすのではなく走るトラックを活かす方法はないのか。」と悩み続けました。

その時に会社の壁に貼られた子どもたちの絵に目が留まりました。それはドライバーのお子さんたちが安全運転を願って、お父さん(お母さん)の顔と激励の言葉を書いたものでした。「これだ!」とひらめき、子どもたちの絵と言葉をトラックの後方に掲示することを思いついたのです。ラッピングが出来るまで色々なご苦労があったそうですが、子どもたちが描いた絵を載せてトラックは走り出しました。ドライバーの方々も子どもと一緒に仕事をしている感覚となり、より一層安全運転を心がけるようになりました。そのトラックを見かけた人たちからも好意的な意見が寄せられるようになり、協力して下さる会社も出てきてラッピングが広がっていったそうです。海外の中国やラオスなどにも広がっていきました。

その後、お父様を亡くされたお子さんはすでに成人され、お母様からは「もう十分にさせていただいたので。」と運送会社の代表の方に感謝の気持ちを伝えられたそうです。その事故をきっかけに運送業を経営する者として、ドライバーの皆さんが事故等への不安や恐れではなく、子どもたちの純粋な思い「安全運転でお仕事頑張っ
てね。」と希望を持って仕事をする環境を作りたい、人が幸せを感じあえる社会にしたいと継続されています。我々も運転する一人として、穏やかな気持ちで交通事故のない運転を心がけたいと思います。



交通事故の多い月は?

交通事故総合分析センターによると、事故にあう児童の学年として一番多いのが小学1年生、また5月が最も事故発生件数が多いそうです。入学したての4月はまだ緊張感があるようですが、5月になると少しずつ外出にも慣れ、子供だけで登下校や遊びに出かける機会が増えることも原因と言われています。3年生からは自転車事故が増えるそうで、6月からが多くなるそうです。小学生のみえるご家庭はもちろんのこと、幼稚園児の皆様も気を付けてくださいね。

保護者の皆様をお願いしたいのは、『歩いて移動の時は必ず手をつないでいただきたいこと、常にお子さんの行動から目を離さないこと』です。そして車で移動するときは、『必ずチャイルドシートでお子さんを固定すること』です。「子どもがいやがるから、すぐそこまでだから」と安易に考えると、思わぬ事故が起きる場合があります。先日もスライドドアが開いて、お子さんが車から落ちてひかれてしまうという悲しい事故が他県でありました。

瀬戸ひなご幼稚園は以前、瀬戸警察署よりチャイルドシート使用徹底モデル幼稚園に委嘱されました。期限は過ぎていますが継続して呼びかけていきたいと思っておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

